

令和4年度の事業報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

法人名 特定非営利活動法人もちもちの木

1 事業の成果

別添資料参照

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業名)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
介護保険法 による認知 症対応型共 同生活介護 の居宅サー ビス事業	認知症高齢者の為の グループホームの運営 ①グループホーム土橋のおう ち ②グループホーム古田のお うち	(C) 土橋=11名 古田=17名	(D) 認知症 要介護高齢 者 (E) 定員各9 名、計18名	90,780
介護保険法 による通所 介護の居宅 サービス事 業	要介護認定高齢者の為の デイサービスの運営 ①デイサービス土橋のおう ち ②デイサービス古田のおう ち	(C) 土橋=15名 古田=12名	要介護高齢 者 定員 土橋13名 古田13名 計26名	49,056
障害者の日常 生活及び社会 生活を総合的 に支援するた めの法律に基 づく地域生活 支援事業	障がい児(者)の為の支援 ①日中一時支援	(C) 土橋=15名	障害児(者) 定員3名	

高齢者、障害者の趣味活動、社会参加の援助 高齢者専用賃貸住宅以外の高齢者住宅の運営管理	①ふれあいサービス もちもちの木	(C) ①庚午 28 名	① 延べ 45 名	3,867
	②地域交流広場古田の おうち	②古田=1 名	② 延べ	
	③地域交流広場庚午の おうち	③ 庚午=2 名	665 名	
	④地域交流広場土橋の おうち	④ 土橋=1 名	③ 延べ 2956 名	
	⑤庚午のおうちシェア ハウス	⑤ 庚午=1 名	④ 延べ 16 名	
	⑥居住支援	⑥ 土橋=1 名 庚午=1 名 古田=1 名	⑤ 定員 6 名 ⑥ 延べ 118 名	

(2) その他の事業
実施なし

(備考)

- 1 2 は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2 (2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

令和4年度 特定非営利活動法人もちもちの木 活動報告書

新型コロナウイルスの感染予防のために全職員で衛生管理と行動管理に取り組んだが、8月から12月にかけて入居者・職員・家族など感染者があり対応に追われた。しかし初動から事業所内のゾーニング対策の徹底と職員の協力で感染拡大させることなく最短で収束させた。

厳しい感染対応の中でも既存の事業を維持継続させながら、理念の共有、ミッション、ビジョン、目指すべき人物像を浸透させて次世代への方向を明確にし、多様な価値観を認め合う組織作りの評価制度の運用を促進した。

また、居住支援指定法人としての事業では具体的な支援を定着させ、庚午のおうちのコミュニティスペースにおいては新しい生活様式の体制を整えつつ地域で役立ち活動できるように子ども向けのプログラミング教室や住まいの保健室の開設準備など新たな活動を推進した。

2040年の幸せな暮らし、超高齢&ソロ社会の「住まいと暮らし」のあり方としての「居住支援フルハウス構想」は、これまでのつながりを軸に実現を目指しワーキンググループを立ち上げた。

○ミッション：使命

住民参加とボランティア精神のもとに、地域に根差したサービスを提供し、すべての人が健やかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与する事

○ビジョン：将来像

人の縁という財産を創ろう

世代を超えた多世代のつながりが新しいセーフティネットになる

○もちもちの木の目指す人物像

「優しさと勇気のある人」

失敗を隠さず、嘘なく、個人を責めずチームで受け止め、想いを言語化して、いち早く状況を整理し改善に向き合う人

「地域と共にある法人」

地域コミュニティ支援事業と介護事業をリンクさせ、新型コロナウイルス感染予防に対応できる新しい生活様式を定着させることで“地域から考える新しい介護のカタチ”を創造した。

地域活動者の暮らしのリスクマネジメントをして、これからの介護を予測しリアルな情報を提供して介護の方針決定を手助けする仕組みを「居住支援」という新たな事業で試行錯誤するために「ふれあいサービスもちもちの木」の再編や「住まいと暮らしの保健室」の開設準備などを実施し、既存の事業の連携を試みた。

「働き方改革」

健康的に成長させる、100年時代を踏まえた社会人基礎力の獲得と生産性の向上を継続した。

●人材育成

人材育成チームを編成し、現場とオンラインを介した人材育成を並行して実施するためにオンラインスキルを標準化した。これを全事業所で維持するほか評価制度を確立し、数値化から個々の能力向上に繋げる取り組みを行った。

評価項目：★肯定ファースト ★社会人基礎力 ★情報の共有 ★責任の共有
★介護技術 ★課題解決 ★社会人マナー

●情報共有・責任共有

全事業所で毎日のミーティング（日々の調整）、カンファレンス（実行計画）を実施した。

サイボウズと共有ボード活用の改善を行い「業務の見える化」の維持継続を図った。

介護記録の電子化は定着したが生産性が上がる活用の検討は課題となった。

介護保険上の同サービスでの記録等を統一するなど事業所間でのスポット勤務を円滑にするための取り組みを行ったが、各事業所の重要とする項目の擦り合わせが難しく統一には至っていない。

全職員がペア面談で目標設定するほか、業務と責任領域の具体的な項目で可視化されているか検証した。

自主的にスキルアップできるよう「自主学习会もちもちの木ケアメソッド」の研修を実施した。

→「6. 講師派遣、研修・地域活動への参加」に記載

●介護環境整備 IT化とロボット導入は実現できず今後の課題となった。

「利益確保」

利益確保して事業を次世代に引き継ぐために役割分担し、会議・研修等で知識と経験を共に分かち合って成長することができた。営業力の強化、IT化やロボット導入で経費削減に取り組む事は出来なかった。人件費率62%を基準とし決められた時間内で業務を行い、残業減の為に出勤時間や業務分担を見直すことは感染対応などで十分に検討できなかった。

法人内での会議はおおむねオンライン化し在宅での参加も可能となった。

「経営と運営」

現場職員の声を直接反映するために会議のあり方の見直しは実行できず、今後の課題となった。

●営業会議の開催

理事会役員、管理者、リーダー、相談員、計画作成担当者、総務担当者、その他の有識者で毎月の営業会議を開催し、時代に合った経営に関する必要な知識や考え方を知り理解した。前月のデータを共有し分析し、またそれに伴うアクションプランの作成と修正を行った。銀行融資担当者には全体会議で経営基準などの事業分析していただき業界の現状の理解をはかった。

また今年度より新事業所の立ち上げと法人の経営アドバイス、法的な対応等をしていただく有識者と顧問契約をおこなった。

営業会議で決定したアクションプランを管理し、利用者獲得にむけて各職員の営業協力（広報紙配布、電話対応、来訪者対応、地域住民・親戚への口コミ等）を得て計画的なアプローチをはかった。地域からの相談・紹介・介護事業所の利用やデイからグループへの入居を数値化（地域からの各事業所の信頼度評価）するほか、22年間の繋がりのある関係者リストを営業活動に役立てるためのツール開発を専門家に依頼、次年度に運用し実施することとした。

●運営会議の開催

管理者・リーダー・介護職員、総務担当者、その他の有識者で開催した。

事業所運営に関する必要な知識や考え方を理解し職員の研修の実施状況、アクションプラン、業務改善の進捗状況を報告し共有した。4事業所で協力してシフト調整や人材難の支援を相談しながら行った。

【利用相談・体験・利用および中止件数、デイからグループへの入居者数】

	待機登録（R5年3月現在）	新規入所者
グループホーム土橋	11件	4名（うちD土橋利用者0名）
グループホーム古田	19件	2名（うちD古田利用者0名）

	利用相談	体験	新規利用	利用中止
デイサービス土橋	28件	12名	8名	9名
デイサービス古田	16件	12名	10名	9名

●令和3年度から立ち上げた事業 目標金額達成

- ① オンライン介護相談 2件
- ② コンサルティング 2件 2回 →「6. 講師派遣、研修・地域活動への参加」に記載
- ③ オンライン研修 外部向け法人主催研修は未開催
- ④ 外国人介護技術技能試験評価 実習生評価試験 実施無し

- ⑤ 居住支援事業 補助金獲得（令和3年に指定取得）
- ◎スペシャリストによる看護・介護の自費サービス EssentialCareAttend
利用者4名 活動回数のべ120回
 - ◎「住まいと暮らしの保健室」共同募金による社会課題解決プロジェクトで募金活動を実施。
→「5. 居住支援法人」に記載

1. 会議

(1) 第21期通常総会[オンライン]

令和4年6月25日（土）18:30～20:00

新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催とした。

土橋にて参加：理事長・副理事長・監事

活動報告担当職員9名

オンライン参加：正会員4名、賛助会員、その他の職員

(2) 理事会

営業会議と同日開催

(3) 運営会議（毎月第1水曜日）

目的：各事業所の運営面の課題解決

職務：現場の業務課題や人員配置、人間関係の課題を法人全体で共有し話し合う

各事業所より2名ずつ運営委員を選定

(4) 営業会議（毎月第4水曜日）

目的：各事業所の収益拡大

職務：各事業所の営業計画を立て、営業訪問等を実施し報告する

各事業所より2名ずつ営業委員を選定

(5) 法人全体会議

【第1回】令和4年9月26日（月）19:30～20:00 オンライン

法人および4事業所の上半期の報告、下半期の計画

※18:30～19:30 キャリアパス研修「認知症ケア①」と同時開催

【第2回】令和5年3月26日（月）18:30～19:30 オンライン

令和4年度の各事業所活動報告

令和5年度の体制について

(6) 衛生委員会（計6回開催）

- ・入居者、職員のほか家族、関係者が次々と新型コロナウイルス陽性となり、その都度対応を協議した。感染収束に伴い面会制限を緩和した。
- ・夏と冬の5S活動、各事業所での職場環境改善を行った。

2. 介護事業

(1) 土橋のおうち

◎グループホーム土橋のおうち（定員9名）

入居状況（令和5年3月31日現在）

入居者 9名（女性7名、男性2名） 平均年齢 83.1歳） 平均介護度 2.6

介護度	人数
要支援2	0
要介護1	0
要介護2	5
要介護3	1
要介護4	2
要介護5	0

カンファレンス 毎月定期開催（計12回）

運営推進会議 隔月開催（計6回）

※新型コロナウイルス感染防止のため文書にて報告

研 修 キャリアパス研修受講 ※「6. 講師派遣、研修・地域活動への参加」(4) 参照

消防訓練 9/8、3/24 いずれも運営推進会議と同時開催

行 事

4月	花見
9月	敬老会
12月	クリスマス会
1月	初詣
2月	節分豆まき
3月	花見・桃の節句

※このほか入居者全員の誕生日会を行った。

【令和4年度 活動計画振り返り】

1. チームケアの徹底、互いに声かけあい協力して業務をこなす
→水分補給、トイレ誘導、服薬について声を掛け合い協力して行うことができた。
2. 情報共有やスタッフ全員の主体的な行動を心がけ、責任感を持つ
→サイボウズやNシステムはスタッフ全員活用できるようになった。
→各担当者がモニタリングや家族へのお便りを作成することで責任をもって関わりあえるようになった。
3. ヒヤリハットの対応でケアの改善や修正をして、統一したケアの内容を定着させる
→統一ケアの定着が出来ている。
ヒヤリハットの対策について確認できるサイクルを構築することが課題。
ミーティングで毎月振り返り、対策について統一出来ているか確認する場を設けていく。
4. 各勤務の業務改善、ホワイトボードの活用を他事業所のやり方を参考にして見直す
→古田のおうちのホワイトボード活用を参考にした。
スタッフ一同活用に慣れてきた。

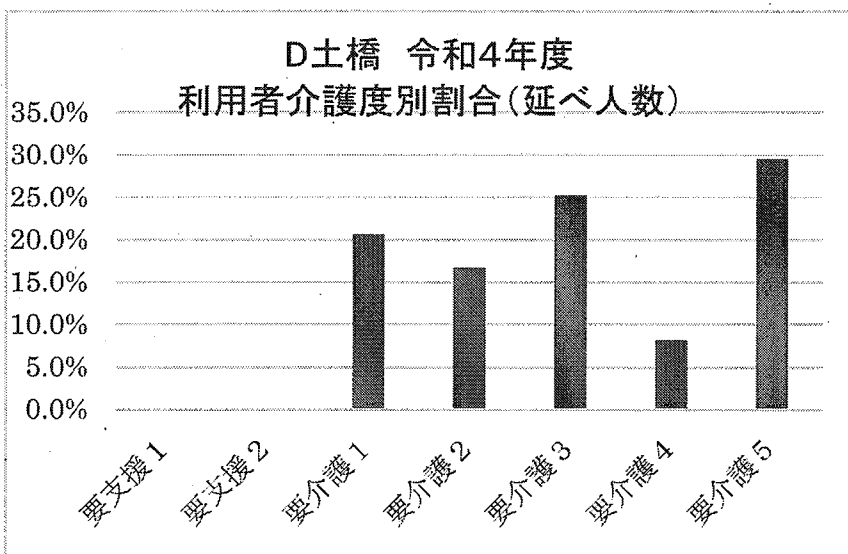
◎デイサービス土橋のおうち（定員13名）

登録者 計21名（令和5年3月31日現在）

稼働率 平均46.6%（令和5年3月31日現在）

利用相談28件（うち相談のみ8件、体験利用12名、新規利用8名）

利用中止9名（うち令和4年度利用開始 4名）



【令和4年度 活動計画の振り返り】

1. 介護実践能力の向上

根拠に基づいた介護を提供する

⇒介護計画、個別機能訓練計画などの更新に伴い、全員で意見を出し合っ計画にもとづくケアが定着した。

⇒介護福祉士取得 1名

2. 利用者に関わる連携の強化

利用者、家族から「安心できる」と言われる場を提供する

⇒独居のご利用者様の増加

令和3年度…独居の利用者1名 令和4年度…独居の利用者5名

身近にキーパーソンや後見人不在の方も多く、ケアマネ、訪問ヘルパー、医療職と率先して連携し、日常生活を維持するためのサポートを行った。

⇒小さなことでも観察しケアマネに迅速に報告することで信頼を得ている。

3. 活気ある職場づくりを推進する

声を掛けあい、スタッフ間で補い合う

→コロナウィルス感染など、様々な事情で休職したスタッフがいる中、連絡・調整を行いながら事業所を休業することなく運営できた。

→情報共有ツールとして新たに法人全体で従前のものからより安全性の高い LINEWORKS を導入。送迎スケジュールやシフトの緊急連絡などに活用することができた。

→月末報告書の書式をD古田と統一することができた。他の様式統一も試みているが、記録方法が異なるなど調整が難しい点もあった。

→” Google Chromecast” を導入。モニタ画面で YouTube の映像を再生する事でアクティビティやレクリエーションの幅が拡がり、利用者様から好評を得た。

→朝礼時に過去のヒヤリハットや事故から導き出された注意点を日々声出し確認する事で再発防止に取り組んでいる。

4. 経営・運営に参画する

定期的な営業活動を行う

→稼働率など数値をグラフ化して掲示し、運営状況についてスタッフ間で共有を行った。

→春～夏にかけて居宅介護支援事業所の営業訪問を行ったが、秋以降は新型コロナ蔓延のため居宅訪問を控えた。

体験利用後、実際の利用にむすびつける

→体験利用時の様子を当日中にケアマネージャーに報告、情報を共有することで信頼できる事業所を印象付け、実際の利用に結び付けることが出来た。

BCP（事業継続計画）策定に向けて衛生委員会と情報共有し、業務マニュアル等の整備に着手する

→新型コロナ感染、防災訓練などを経て課題抽出をすることができた。

(2) 古田のおうち

◎グループホーム古田のおうち（定員9名）

【令和4年度 活動報告】

令和4年度の活動目標：

私たちは、認知症になっても一人ひとりの尊厳が保たれ、自立支援と重度化防止が図れるよう、より良いケアの研究と情報共有を積極的に行います

1. 入居者様が過ごしやすい居場所や職員の働きやすい環境を整備する。
 - ・ 定期的な5S活動により、整理整頓された環境を目指す。
 - ➡ スタッフルームが整備し鍵付きロッカーが設置された。
 - ・ 入居者の残存機能を活かして、日常的な活動ができる空間を設える。
 - ➡ 車いす利用者に対して椅子への移乗を増やしたことで、立ち上がり機能の改善がみられた。
入居者が動きやすい席の配置により会話が活性化した。

2. 介護の専門知識を深め、本人に寄り添った適切なケアができる。
 - ・ 定期的な研修への参加及び、日々のMTGより状況に応じたケアを工夫する。
 - ➡ その日その日の入居者の状況に合わせてケアの工夫を臨機応変に実施できた。
 - ・ ICTやホワイトボードを使って情報共有し、データ分析により根拠あるケアを行う。
 - ➡ 食事や排せつ等ケア記録が増え、数値化したデータ分析が出来る観察力が養われた。

3. 全員がリーダーシップを発揮し、常に業務の見直しを図る。
 - ・ 安定した経営が継続できるよう人件費率62%を目指す。
 - ➡ 人件費の上がり下がりの幅が大きい1年でしたが最終平均は63.6%となった。・ 営業活動や相談を受けられる体制の確保により、法人全体で共有する。
 - ➡ 営業に関しては具体的なアクションが出来なかった。相談は随時受けていった。

4. ご家族、地域、多職種との連携を図る
 - ・ 古田のおうちからの情報発信や、合同での会議・イベント企画により連携を図る。
 - ➡ コロナ禍で感染対応もあったので運営推進会議で情報発信を行い、イベント開催は次年度の課題となった。
 - ・ 日ごろから、町内との協力連携を図り、災害等の非常時に備える。
 - ➡ 運営推進会議や避難訓練等の呼びかけのみで協力連携は課題となった。

入居状況（令和5年3月31日現在）

介護度	人数
要支援2	0
要介護1	1
要介護2	2
要介護3	1
要介護4	4
要介護5	1

定例MTG 毎月第2水曜日（12回開催）カンファレンス 毎月第4金曜日（12回開催）

運営推進会議 5/11、7/13、11月度延期 12/14、3/15、9月は蔓延防止対策により書面開催とした
（5回開催、1回書面開催）

研修 計画されたキャリアパス研修を実施することができた。

◎デイサービス古田のおうち（定員13名）

【令和4年度 活動報告】

1. ユマニチュードの更なる徹底

・ケアの5つのステップの実践

スキルアップのために、定期的な研修の実施。

⇒スタッフがユマニチュードを意識してケアを行い、継続して出来ているが、定期的な復習の機会が無かった。次年度の課題。

2. 機能訓練に職員全員で取り組めるようになる

①効果的な居宅訪問の実施

⇒全職員が利用者1人ひとりの機能訓練内容も把握し、看護師の確認をとった上で実施出来るようになった。

②居宅訪問のスケジュール管理の徹底

スケジュールを一覧化し、期限ごとに色分けを行い見落とし防止し分担して訪問した。

3. ICTやオンラインを積極的に活用する

①Nシステム、L I F E等研修の参加

→研修を実施できなかったが日常の業務の中で苦手な職員の入力サポートを実施した。

②Nシステムに慣れ、サイボウズと合わせて必要な業務として業務時間内でルーチン化システムの連動やL I F Eの方向性を見極める。

→L I F EやI C Tはまだ全員が目標達成出来ていないので、引き続きサポートしあって向上していく。

③業務の振り返りや報告の実施

定期的なMTGにより、事業所の課題を共有することで、全員が解決に向けて検討協力した。

→Nシステムとサイボウズにて業務の効率化が図れている。情報共有に全職員が注目し、意見を出しやすい環境になった。ミーティングでも納得するまで話し合うことができた。

4. 業務内容の改善を図る

①ホワイトボードの改善を行い業務の可視化と共にチェック機能を持たす

→些細なことや連絡事項を細かくホワイトボードに記載することにより、業務をスムーズに進めミスを防ぐことができた。

②情報共有しチームワーク・連携を強化し維持しホワイトボードも進化させる

ホワイトボードは小さなエラーのたびに常に進化中で、可視化した事で情報共有し業務を効率化することができた。

5. 経 営

登録者数 目標35名 →実数24名(24名)

利用実績 目標11名 →実数7.7名(8.2名)

機能訓練 目標20名 →実数16名(15名) ※()は昨年の実数

相談のみ 4件 相談・体験 12名

利用開始 10名 中止 9名

①新規利用者獲得のために、空き情報提供に可視化できるようにチラシを作成して営業を行う。

→定期的な営業は出来なかったが、家族やケアマネージャー向けのチラシをわかりやすく変更し、空き情報チラシを配布した。また、ニュースレターとチラシを地域と会員や関係者に郵送した。

②職員全員が経営への関心を高め、毎回のミーティング項目とする。

定期的な営業活動により、新規獲得を行い、出来る限り本人らしい在宅生活が続けられるチームケアの実践を様々なツールを使ってアピールしていく。

→経営に関してはまだまだ理解出来ていない事が多くMTGで収支の共有を継続をする。

体験利用をされた際に事前に情報収集し過ぎられ方について検討し、席配置などを考えながら関わることで、利用に繋がった。

運営推進会議 5/11、7/13、9月：書面開催、11月：延期 12/14、3/15

(5回開催、1回書面開催)

研修 キャリアパス研修受講

カンファレンス&ミーティング 毎月第2月曜日開催 計12回

3. 地域コミュニティ支援事業

(1) 土橋のおうち

◎もちもちカフェ（認知症カフェ）

毎月第1土曜日 14:00～15:00 感染対応等により5回開催となった。

参加者 延べ18人（1回あたり平均3.6人）

認知症の人とその家族 延べ5人

新型コロナ感染予防のためオンライン開催とした。当事者の体調不良のため参加が少なかった。

◎スマートブックカフェ 主催者の体調不良のため活動中止となった。

◎手話サロン オンライン化を検討したが開催できなかった。

次年度より開催場所を庚午のおうちに変更する。

◎坂町平成ヶ浜 仮設住宅カフェ 災害支援は次年度より「住まいとくらしの保健室」の活動とする。

土橋のおうち地域交流広場 活動団体一覧(令和5年3月31日現在)

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
もちもちカフェ(認知症カフェ)	第1土曜日	14:00～15:00	5回	18人
				参加延べ人数 計18人

(2) 古田のおうち

◎地域食堂（デイサービス古田のおうち）

新型コロナウイルス感染予防の為に開催できなかった。次年度の開催予定なし。
庚午のおうちで再開を検討する。

◎古田ママの会

令和4年4月～令和5年3月 9回実施
利用のべ数、親子46組(子ども42名)
スタッフのべ数(講師含む)67名

◎若年性認知症の本人家族の地域生活支援を考える会

毎月第4日曜日 13:00～16:00 11回開催(12月中止)

利用者延べ数 209名(当事者、家族、地域住民、専門職70名、運営スタッフ28名)

コロナ感染防止策を図りながら、対面の機会を増やし、当事者・家族の居場所として開催した。

若年性認知症の当事者を中心に、家族、地域住民、専門職のため、「音楽療法」「簡単クッキング」「健口教室」「日本で心臓移植を待つ患者の想い」「自費リハビリってなあに？」などのミニ講座を開催し話題となったことで、参加者の方からは、障害を抱えてもその人らしく暮らしていく方法の学びになった、相談する場所ができた、悩みやストレス削減になったなど好評をいただいた。

また、近隣の認知症カフェから出前講座の依頼も受け、カフェ開催のノウハウをお伝えした。

古田のおうち地域交流広場 活動団体一覧(令和5年3月31日現在)

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
古田ママの会 ※古田公民館で開催	第2金曜日	10:30～11:30	9回	親子46組
若年性認知症を考える会	第4日曜日	13:00～16:00	11回	209人
				参加延べ人数 計301人

自主活動グループ

内容	開催日	開催時間	回数	参加延べ人数
しあわせ体操	毎週土曜日	9:30～11:30	44回	282人
カフェ 万葉の和	第3土曜日	11:00～12:00	11回	82人
				参加延べ人数 計364人

(3) 庚午のおうち

◎もちもちの木 オープンスペース「もちもちの子こうご」

令和4年4月～令和5年3月 オープンスペース45回開催

利用のべ数 親子150組 子ども162名 大人（スタッフ含む）295名

日時：毎週月曜日10時～14時

◎庚午カフェ

第1・3火曜日開催。コロナ感染予防のため食事提供は中止し「集まらなくても繋がっていく方法」として持ち帰り弁当、お一人様お節料理を提供した。

地域の方の要望を聞かせてもらい9年経過、住民主体のコミュニティの場として定着してきている。

◎健康マーじゃん

第1・3・5水曜日「飲まない、吸わない、賭けない」をモットーに発足して10年目に入る。

新型コロナウイルス感染対策として、マスク、手洗い、換気、消毒を留意して開催した。

◎ためき倶楽部

第3水曜日 19時～ ボーリング・ソフトボール 7回開催

感染対策をしながら活動した。冬場はボーリングを開催。

庚午のおうち 地域交流広場利用集計

団体名・活動名	活動回数	参加延べ人数
庚午カフェ	17回	弁当 1,204
健康マーじゃん	24回	695人
ためき倶楽部 ソフトボール部のみ開催	7回	37人
オレンジャーひろば	14回	325人
ふれあいサービスもちもちの木	12回	179人
もちもちの子 こうご ※法人事業	45回	457人
その他	14回	59人
合計（延べ数）	133回	2956人

※ふれあいサービス・多世代シェアハウスについては「5. 居住支援」に掲載。

4. 総務

令和4年度活動計画の振り返り

【法人経営・事業所運営】

- ・「運営会議」「営業会議」を機能させ、職員の意見をもとに経営・運営を行う仕組みをつくる。
 - 2つの会議を基盤としてマネジメントに関心をもつ職員が増え、現場の意見を活かせるようになった。
 - 夜間のオンライン会議に参加できる職員に限られるという課題がある。あらゆる職員の意見を集約する仕組みの検討が必要。
- ・事業継続計画（BCP）の策定に向けて検討と仕組みづくりを継続する。
- ・BCP（事業継続計画）に基づき総務の業務データ、業務手順をバックアップする仕組みをつくる。
 - 「BCP作成を通じた防災リーダー養成研修」を受講、法人内で情報共有した。計画作成の具体的な動きには至っていない。
 - 総務の事業継続のために各種データの整備、保管管理システムの整備を行った。

【安全衛生】

- ・多様な職員が安全に長く働き続けられる職場環境をつくる。
 - 治療・介護・育児等と仕事を両立できる職場づくりをめざして「令和4年度両立支援コーディネーター基礎研修」を受講した。育休復帰支援、傷病休職中の職員のフォローに役立てることができた。
- ・「衛生委員会」を通じて定期的な安全衛生管理の仕組みを機能させる。
 - 全職員のほぼ3人に1人が新型コロナに感染するという厳しい状況の中、衛生委員会として迅速に情報共有し影響を最小限にとどめることができた。

【人事労務】

- ・自己評価・ペア評価制度を定着させて各自が自律的に成長する風土をつくる。
 - 介護職員ペア制度をもとに互いの介護技術評価を行い、自己評価の定着をめざした。
 - キャリアパス研修を職員が担当することで介護以外の経験値を高めることができた。

【人材確保】

◎離職率

令和4年度の法人離職率は一昨年度より上昇し、全国平均を上回った。とくにグループホーム職員の退職が増加傾向にある。

法人離職率 21.2% (令和4年度)

全国平均 [産業計] 8.7%

[医療、福祉] 9.9% (厚生労働省「令和4年上半期雇用動向調査結果の概況」)

令和4年度 採用実績

	ハローワーク等 (自主応募含む)	人材紹介会社経由	職員の紹介等	計
面接件数	3件	14件	10件	27件
採用人数	3名	4名	7名	14名

離職率

年 度	年度当初の在職者数	退職者数	離職率
令和3年度	48名	5名	10.4%
令和4年度	52名	11名	21.2%

5. 居住支援法人

「住まいと暮らしの保健室」事業開始にむけて、新スタッフを迎え共同募金会のプロジェクトに参加し106件の団体・個人の方よりご寄付を頂くことができた。

居住支援法人事業は3年目を迎え、相談件数が以下の通り増大している。

課題解決に向けて、地域包括支援センター、市地域支え合い課、反貧困ネットワーク、不動産会社等の関係機関との連携がますます求められている。

令和4年度 相談対応件数 118件 (前年度 相談者数12人)

成約件数 6件 (前年度 4件)

令和4年度居住支援法人活動支援事業補助金交付（国土交通省）

2023年1月25日（水） 居住支援活動 意見交換会（当法人主催）

（会議出席・来訪等）

2022年6月25日（土）全国居住支援協議会 総会

2022年7月22日（金）広島県共同募金会「社会課題解決プロジェクト」エントリー

2022年7月26日（火）広島市社会福祉協議会 研修会

2022年8月23日（火）広島市住宅課意見交換会

2022年8月10日（水）広島弁護士会研修 講師（竹中・平城）

2022年10月21日（金）居住支援セミナー

2023年1月18日（水）広島県居住支援協議会 意見交換会

2023年1月21日（土）古田学区社協 常任委員会オブザーバー出席

2023年1月25日（水）居住支援活動 意見交換会（当法人主催）講師 平城

2023年2月24日（金）福山平成大学 健康福祉学科 岡部真智子教授 電話ヒアリング

2023年3月8日（水）廿日市市居住支援協議会 設立講演（オンライン）

2023年3月10日（金）地域の保健室先進事例 安芸区「矢野の家」訪問

2023年3月23日（木）広島工業大学 建築学科 福田由美子教授 来訪

◎ふれあいサービスもちもちの木（生活支援）

庚午カフェ開催時、地域の困りごとを聞く中で生活支援の必要性を感じ「ふれあいサービスもちもちの木」の活動エリアを庚午・草津・古田近郊に限定して再構築した。

広島市住民主体型生活支援訪問サービス実施団体に認定され、月に1回の勉強会を開いている。活動することで、地域包括センターと西区社協との関わりあいも増え一歩ずつ進めている。

◎多世代シェアハウス 庚午のおうち

入居者 計6名（80歳代1名、60歳代2名、40歳代1名、20歳代2名）

満室（令和5年3月現在）

令和3年度より居住支援指定法人の指定を受け専任の担当者を配置し、居住支援対象者の入居後のサポートを実施した。

入居者顔合わせの為に「快適シェア会議」を3月に開催しできた。引き続き感染予防のために手洗いマスクを実施中。ゆったりとしたシェアハウスで個々の暮らしを守りながら適度な協力をして支え合っている。

◎居住支援フルハウス構想

2040年の幸せな暮らし、超高齢&ソロ社会の「住まいと暮らし」あり方として「居住支援フルハウス構想」のワーキンググループを立ち上げ、定例会開催の土台ができた。

6. 講師派遣、研修・地域活動への参加

(1) スタッフの参加

◎土橋・本川地域の活動への参加

法人として土橋町町内会役員（会計・総務）を担当した。

実施日	内容
8/5	原爆死没者慰霊祭

(2) 講師派遣

◎認知症サポーター養成講座

講師 竹中庸子

実施日	内容
9/22	ステップアップ講座 竹屋民児協 民生委員
9/16	認知症サポーターステップアップ講座フォローアップ研修
10/27	ステップアップ講座 竹屋民児協 民生委員

講師 木田裕子

実施日	内容
4/19	認知症サポーター養成講座 広島銀行新入社員
5/19	認知症サポーター養成講座 JA 五日市支店
6/8	ステップアップ講座① 江波地域包括 江波民児委員
6/15	ステップアップ講座② 江波地域包括 江波民児委員
7/6	ステップアップ講座③ 江波地域包括 江波民児委員
8/18	西区認サポアドバイザー交流会 講師
10/1	認知症サポーター養成講座 井口包括 アルパーク・無印良品職員 認サポ

10/13	認知症サポーター養成講座 五月丘包括 五月丘歩こう会等地域団体
11/10	認知症ステップアップ講座① 美鈴が丘・五月が丘包括、地区社協
12/8	認知症ステップアップ講座② 美鈴が丘・五月が丘包括、地区社協
12/13	認知症サポーター養成講座 ふれあいサービス
1/17	認知症サポーター養成講座 ヤクルト広島支店幹部会
2/20	認知症サポーター養成講座③ 美鈴が丘・五月が丘包括、地区社協

◎その他の講座・シンポジウム等

講師 竹中庸子

実施日	内 容
WEB 配信	第23回認知症ケア学会大会 In 広島 WEB 配信：2022年6月18日（土）～10月31日（月） テーマ 超高齢社会での認知症ケアの姿を求めて シンポジウム 2. 認知症の人にやさしいまちづくり 座長：加藤伸司（東北福祉大学総合福祉学部，認知症介護研究・研修仙台センター） 基調講演 高齢者を支える「住まいと暮らし」 竹中庸子（特定非営利活動法人もちもちの木）
8/10	広島弁護士会研修 居住支援について（平城・竹中）k
1/21	はるそらゼミナール① 若年性の方の居場所づくり～自分のために 家族のために みんなのために～
2/17	【広島県立身体障害者更生相談所】地域ケア関係機関連絡会議 講演及びシンポジウム
3/4	はるそらゼミナール② 若年性の方の居場所づくり～病気になってもこれからも住みたい街がある～

講師 木田裕子

4/23・24	全国若年性認知症フォーラム in 広島 「若年性認知症の本人・家族の地域生活支援を考える会」発足から活動について
11/2	介護労働安定センター 介護現場の実際と事業所紹介
2/18	力田病院 認知症講座

(3) コンサルティング コンサルタント 竹中庸子

実施日	内 容
7/1	一般社団法人A様 (オンライン)
9/8	株式会社B様 (オンライン)

(4) 研修の受講

◎令和4年度キャリアパス研修 (内部研修・全職員必修)

実施月	内 容
4月	倫理及び法令順守/法人テキスト
5月	身体拘束・虐待防止
6月	第21期通常総会
7月	感染症・食中毒予防【事業所(G土橋)主催】
8月	非常災害時の対応【事業所(G古田)主催】
9月	認知症ケア① 事例発表:G土橋、D古田
10月	プライバシーの保護【事業所(D土橋)主催】
11月	緊急時の対応【事業所(G土橋)主催】
12月	医療的ケア【看護職】
1月	事故発生・再発防止【事業所(D古田)主催】
2月	身体拘束・虐待防止【事業所(G古田)主催】
3/7	認知症ケア② 事例発表:G古田、D土橋

◎外部研修受講 (全体)

実施日	内 容
6/20	【オンライン】広島県グループホーム協会 研修会
6/23	【オンライン】ケアマネ勉強会 古田圏域
7/7	【オンライン】施設ケアマネ研修
8/6	全国介護事業者連盟 設立総会
8/18	アドバイザー交流会
11/29、30 12/21、22	広島市認知症介護実践者研修 1名受講 (グループホーム土橋のおうち)
11/22	運営委員研修 生産性向上の取組に関する介護事業所向けビギナーセミナー
1/21	【オンライン】ケアマネセミナー

◎自主学習会もちもちの木ケアメソッド

毎週水曜日 20時半～ 計10回開催

実施日	内容
4/6	フットケアについて 介護の生理学から
4/13	目のケアについて 介護の生理学
4/20	口腔ケアについて 介護の生理学
4/27	鼻毛の整え方について 介護の生理学
5/11	嚥下について 介護の生理学
5/25	コミュニケーションについての対話会①
6/1	コミュニケーションについての対話会②
6/15	ふり返し会
6/22	「モヤモヤする感情」について
6/29	この一週間の振り返り

7. 想いと活動の紹介

◎情報発信

- ・法人ニュースレター「もちもちの木 smile」

令和4年夏号・令和5年冬号 各2,000部発行

- ・法人ホームページ <https://mochi2.stars.ne.jp> のほか、Facebook、Instagram で随時情報発信を行った。

◎取材

- ・中国新聞 暮らし面 18p-19p 『ソロの時代 上 住宅難民』 2022年4月13日(水)
職員(居住支援担当)平城智恵子 理事長 竹中庸子
庚午のおうち入居者 I様およびフルハウス構想について掲載

8. 寄付・募金活動（ファンドレイジング）

令和4年度 共同募金への参加（令和5年度事業分）

「住まいと暮らしの保健室」：住まいや住民の暮らしから生じる 楽しみや喜び、気がかりなどを共有し、トータル的にサポートする場

これまでの地域の困りごとを解決してきた実績と支援ネットワークを活かし、「住まいと暮らしの保健室」の準備室の開設と運営、人材育成に役立てるために、募金を活用する。

1. 社会課題の解決のための事業の名称

もちもちの木 「住まいと暮らしの保健室の開設」 における
開設準備室の設置とワーカーの募集・研修

2. 事業の総予算額 2,600,000円 3. 共同募金配分申請額 1,300,000円

3. 事業内容

高齢者・障がい者・一人暮らしの方などを主な対象とする
トータルサポートの場、「住まいと暮らしの保健室」開設し、
準備室の設置とアウトリーチ・カフェスタイルで運営する。

令和4年度活動計算書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人もちもちの木

自 令和4年 4月 1日 至 令和5年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費	27,000	
賛助会員受取会費	180,000	207,000

【受取寄付金】

受取寄付金		386,468
-------	--	---------

【受取助成金等】

受取助成金		6,745,459
-------	--	-----------

【事業収益】

土橋グループホーム事業収益	43,472,670	
土橋ディサービス収益	26,326,242	
ふれあいサービス事業収益	192,874	
日中一時支援事業収益	5,800	
土橋地域交流事業収益	7,244	
古田グループホーム事業収益	47,307,736	
古田ディサービス事業収益	22,724,665	
古田地域交流事業収益	48,425	
庚午のおうち事業収益	3,156,440	
庚午地域交流事業収益	766,760	
その他の事業収益	606,128	144,614,984

【その他収益】

受取 利息	134	
受取配当金収益	400	
雑 収 益	966,684	967,218

経常収益 計

152,921,129

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

事業) 給料 手当	77,775,406
事業) 賞与 手当	6,102,597
事業) アルバイト給料	496,186
事業) 退職給付費用	128,000
事業) 法定福利費	11,434,583
事業) 福利厚生費	327,447
事業) 通 勤 費	2,653,363
人件費計	98,917,582

(その他経費)

事業) 業務委託費	640,200
事業) 会 議 費	2,290
事業) 旅費交通費	51,766
事業) 車 両 費	1,207,863
事業) 通 信 費	887,658
事業) 消耗品 費	1,371,126
事業) 修 繕 費	416,827
事業) 水道光熱費	6,990,002
事業) 地代 家賃	14,532,576
事業) 給食用食材	7,480,845
事業) 日 用 品 費	665,481
事業) 保健衛生費	825,797
事業) 新聞図書費	142,249
事業) 保 險 料	1,139,445
事業) 慶 弔 費	122,172
事業) 諸 会 費	89,900
事業) 租 税 公 課	1,238,798
事業) 研 修 費	41,225
事業) 支払手数料	1,521,547
事業) 広告宣伝費	589,659

令和4年度活動計算書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人もちもちの木

自 令和4年 4月 1日 至 令和5年 3月31日

事業) リース料	3,246,364		
事業) 接待交際費	40,835		
事業) 運賃費	3,875		
事業) 支払報酬	100,000		
事業) 総会費用	157,265		
事業) 雑損失	50,000		
事業) 雑費	1,229,892		
その他経費計	44,785,657		
事業費計		143,703,239	
【管理費】			
(人件費)			
役員報酬	4,763,233		
法定福利費	709,891		
人件費計	5,473,124		
(その他経費)			
租税公課	10,000		
支払手数料	100,586		
支払利息	161,981		
支払寄付金	10,000		
通信費	26,400		
支払報酬	1,953,200		
雑費	825		
その他経費計	2,262,992		
管理費計		7,736,116	
経常費用計			151,439,355
当期経常増減額			1,481,774
【経常外収益】			
過年度損益修正益		132,500	
経常外収益計			132,500
【経常外費用】			
過年度損益修正損		240,247	
経常外費用計			240,247
税引前当期正味財産増減額			1,374,027
法人税、住民税及び事業税			121,000
当期正味財産増減額			1,253,027
前期繰越正味財産額			69,708,587
次期繰越正味財産額			70,961,614

令和4年度 貸借対照表

特定非営利活動法人もちもちの木
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和5年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現 金	588,492		
小口 現金	76,365		
普通 預金	16,603,537		
定期 貯金	900,000		
定期 積金	1,080,000		
現金・預金 計	19,248,394		
(売上債権)			
未 収 金	19,860,155		
売上債権 計	19,860,155		
(その他流動資産)			
前払 費用	1,211,048		
立 替 金	364,828		
保険積立金	719,040		
その他流動資産 計	2,294,916		
流動資産合計		41,403,465	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物附属設備	60,364,669		
構 築 物	563,980		
車両運搬具	920,595		
什器 備品	3,052,172		
一括償却資産	648,120		
有形固定資産 計	65,549,536		
(投資その他の資産)			
リサイクル預託金	12,510		
敷 金	6,830,000		
投資その他の資産 計	6,842,510		
固定資産合計		72,392,046	
資産の部 合計		113,795,511	
《負債の部》			
【流動負債】			
未 払 金	6,736,268		
預 り 金	7,194,818		
未払法人税等	121,000		
流動負債 計	14,052,086		
【固定負債】			
長期借入金	28,781,811		
固定負債 計	28,781,811		
負債の部 合計		42,833,897	
《正味財産の部》			
【正味財産】			
前期繰越正味財産額	69,708,587		
当期正味財産増減額	1,253,027		
正味財産 計	70,961,614		
正味財産の部 合計		70,961,614	
負債・正味財産合計		113,795,511	

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

令和4年度 財 産 目 録

特定非営利活動法人もちもちの木
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和5年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	588,492
小口 現金	76,365
普通 預金	16,603,537
広島信用金庫土橋	(8,238,079)
ジャパンネット銀行	(36,529)
ゆうちょ銀行	(3,457,319)
広島信用金庫	(12,000)
中国労働金庫	(1,800,005)
為替ゆうちょ	(10,000)
広島信用金庫 古田	(261,172)
広島銀行	(2,788,433)
定期 貯金	900,000
定期 積金	1,080,000
広島信用金庫土橋	(1,080,000)
現金・預金 計	19,248,394

(売上債権)

未 収 金	19,860,155
売上債権 計	19,860,155

(その他流動資産)

前払 費用	1,211,048
立 替 金	364,828
保険積立金	719,040
その他流動資産 計	2,294,916

流動資産合計

41,403,465

【固定資産】

(有形固定資産)

建物附属設備	60,364,669
構 築 物	563,980
車両運搬具	920,595
什器 備品	3,052,172
一括償却資産	648,120
有形固定資産 計	65,549,536

(投資その他の資産)

リサイクル預託金	12,510
敷 金	6,830,000
投資その他の資産 計	6,842,510

固定資産合計

72,392,046

資産の部 合計

113,795,511

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	6,736,268
預 り 金	7,194,818
給与源泉預り金	(384,555)
報酬源泉預り金	(25,420)
住民税預り金	(202,800)
雇用保険預り金	(117,645)
社会保険預り金	(1,194,398)
土橋グループ一時金	(2,100,000)
古田グループ一時金	(2,700,000)
庚午のおうち一時金	(470,000)
未払法人税等	121,000
流動負債 計	14,052,086

【固定負債】

長期借入金	28,781,811
固定負債 計	28,781,811

負債の部 合計

42,833,897

正味財産

70,961,614